

防災まちづくり

東日本大震災復興の現場から都市の未来を考える

UR都市機構第7回都市再生フォーラム

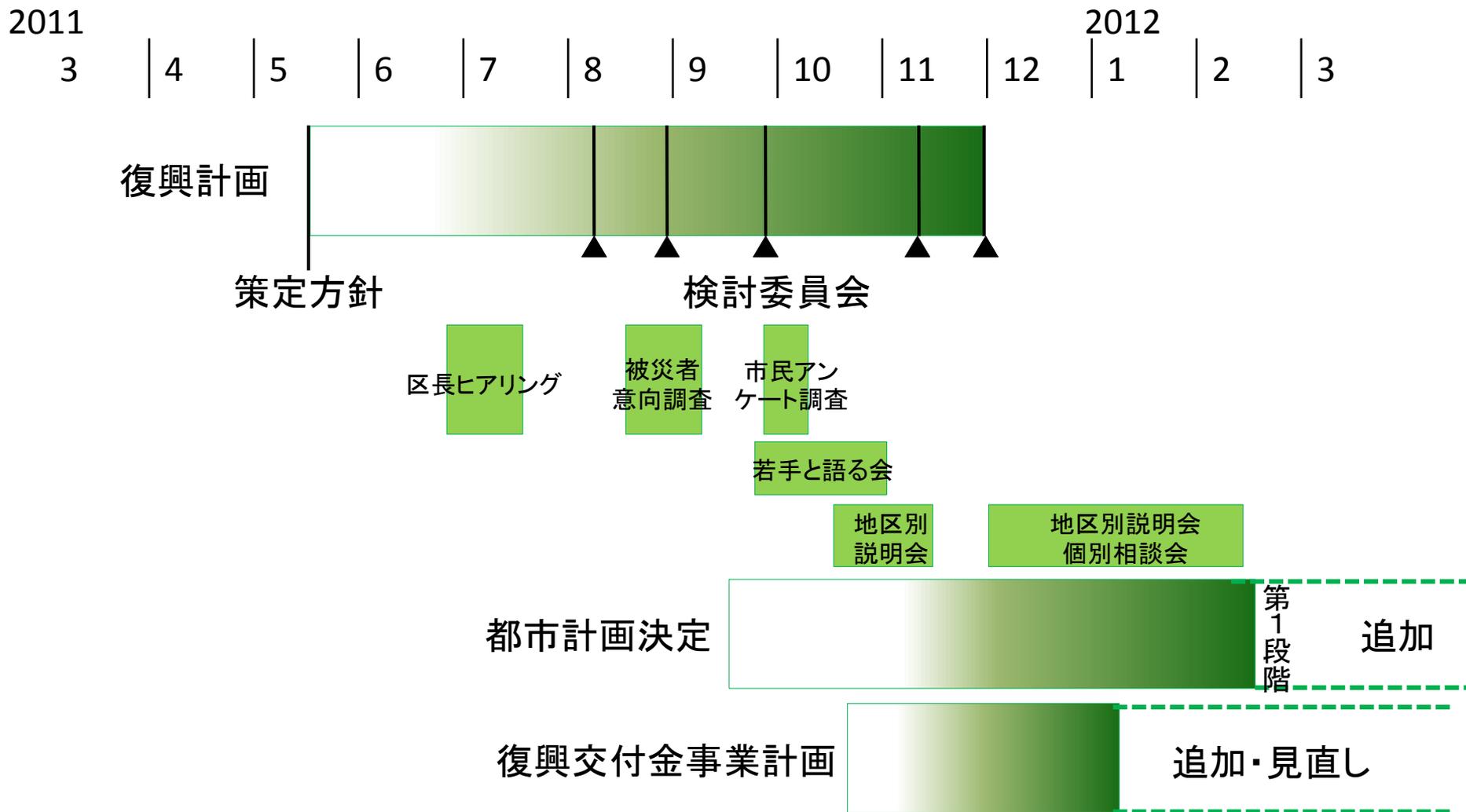
2012年6月15日

東京工業大学 中井検裕

◆陸前高田市震災復興との関わり

- 2011年5月末 国土交通省②市街地復興パターン調査(陸前高田市)の監理委員への要請
- 2011年6月初旬 監理委員として陸前高田入り(~2012年3月まで)
 - 監理会議 計36回(うち現地での会議22回)
- 2011年8月 陸前高田市復興計画検討委員会委員長として(~2011年11月まで)
- 2012年4月より 陸前高田市復興計画推進委員として引き続き現地へ

◆ 計画策定の経過

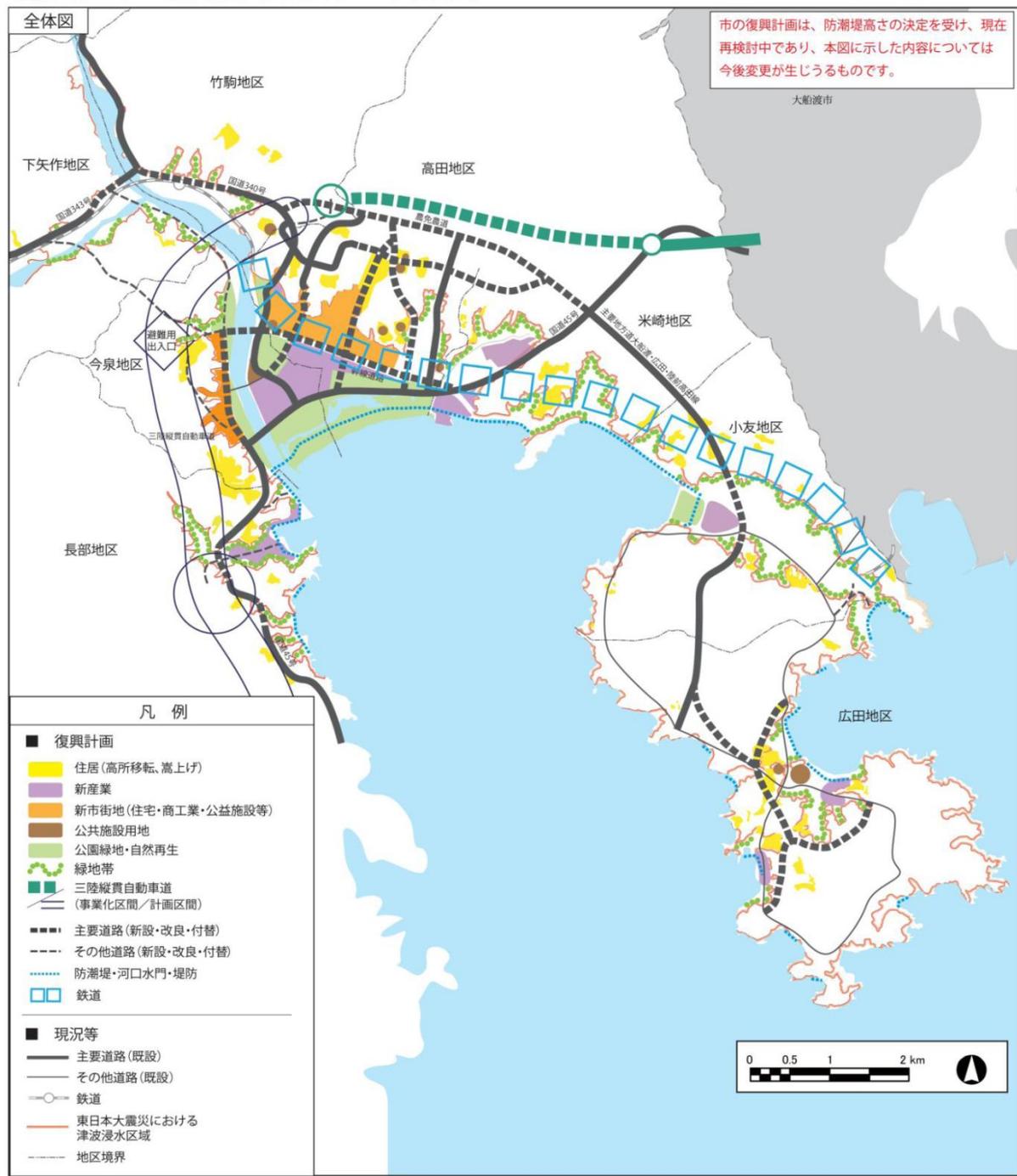


陸前高田市復興計画

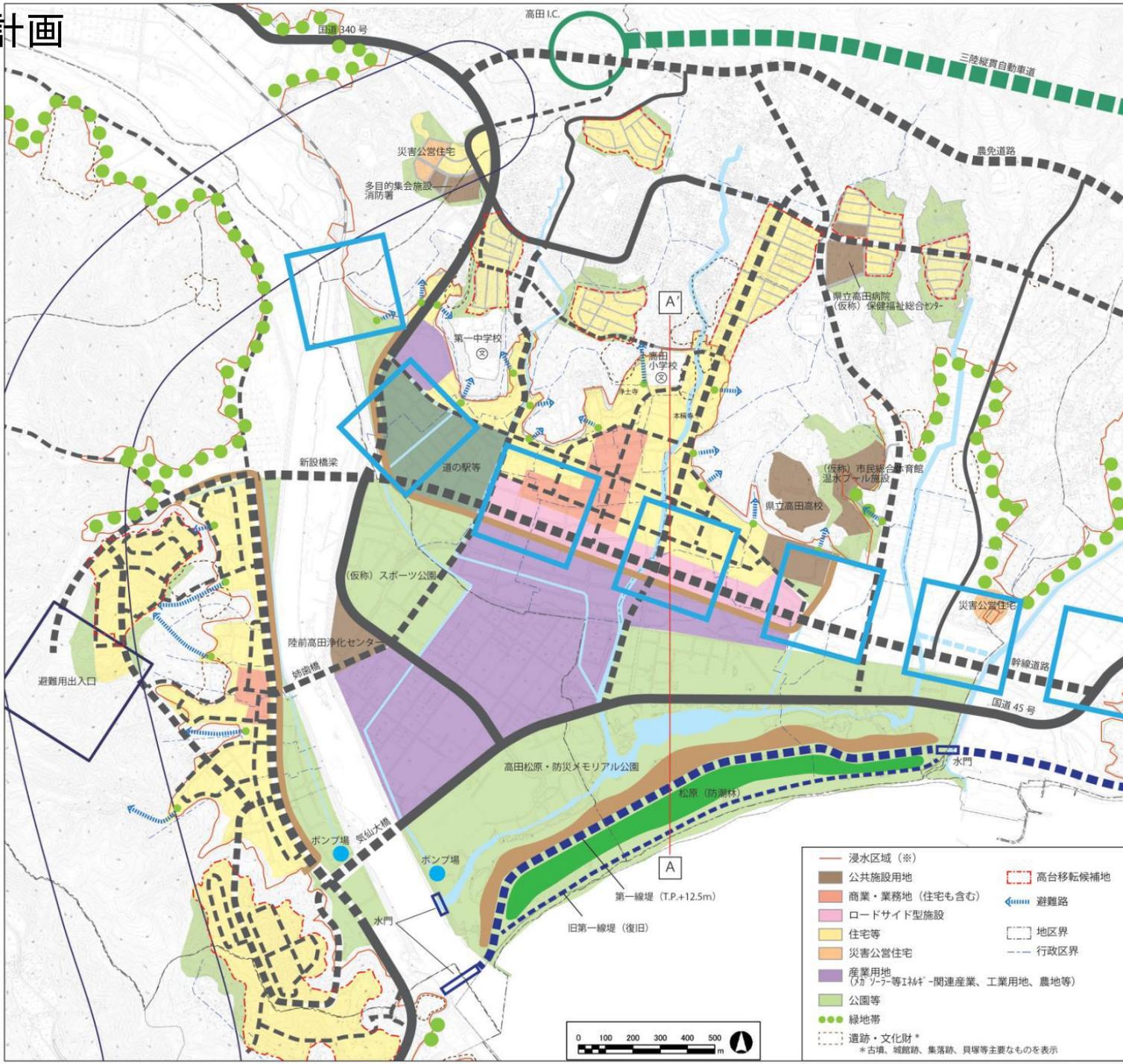


陸前高田市復興計画

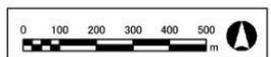
陸前高田市 震災復興計画イメージ図(案)



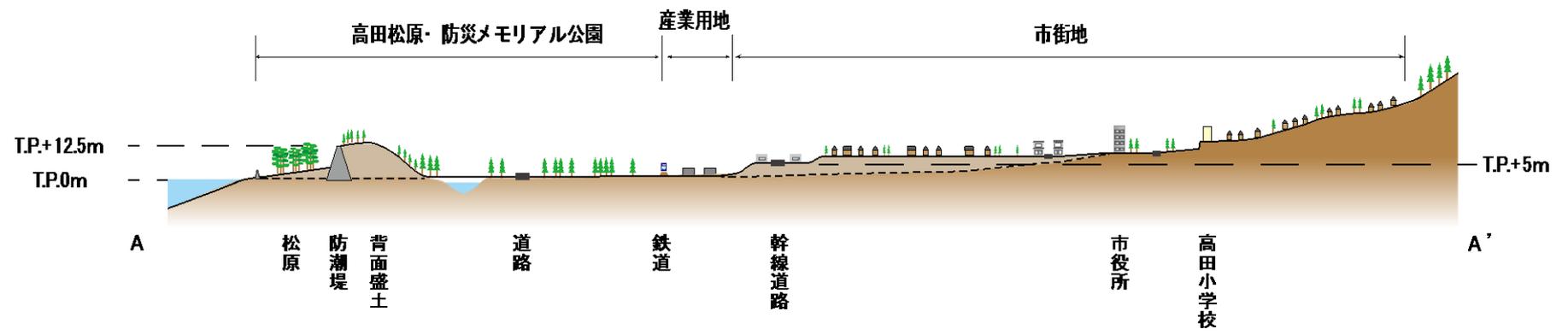
陸前高田市復興計画



- | | |
|------------------------------------|-----------|
| — 浸水区域(※) | — 高台移転候補地 |
| ■ 公共施設用地 | → 避難路 |
| ■ 商業・業務地(住宅も含む) | □ 地区界 |
| ■ ロードサイド型施設 | --- 行政区界 |
| ■ 住宅等 | |
| ■ 災害公営住宅 | |
| ■ 産業用地
(カソーター等I&I関連産業、工業用地、農地等) | |
| ■ 公園等 | |
| ● 緑地帯 | |
| ○ 道跡・文化財* | |
| *古墳、城館跡、集落跡、貝塚等主要なものを表示 | |



陸前高田市復興計画(案)

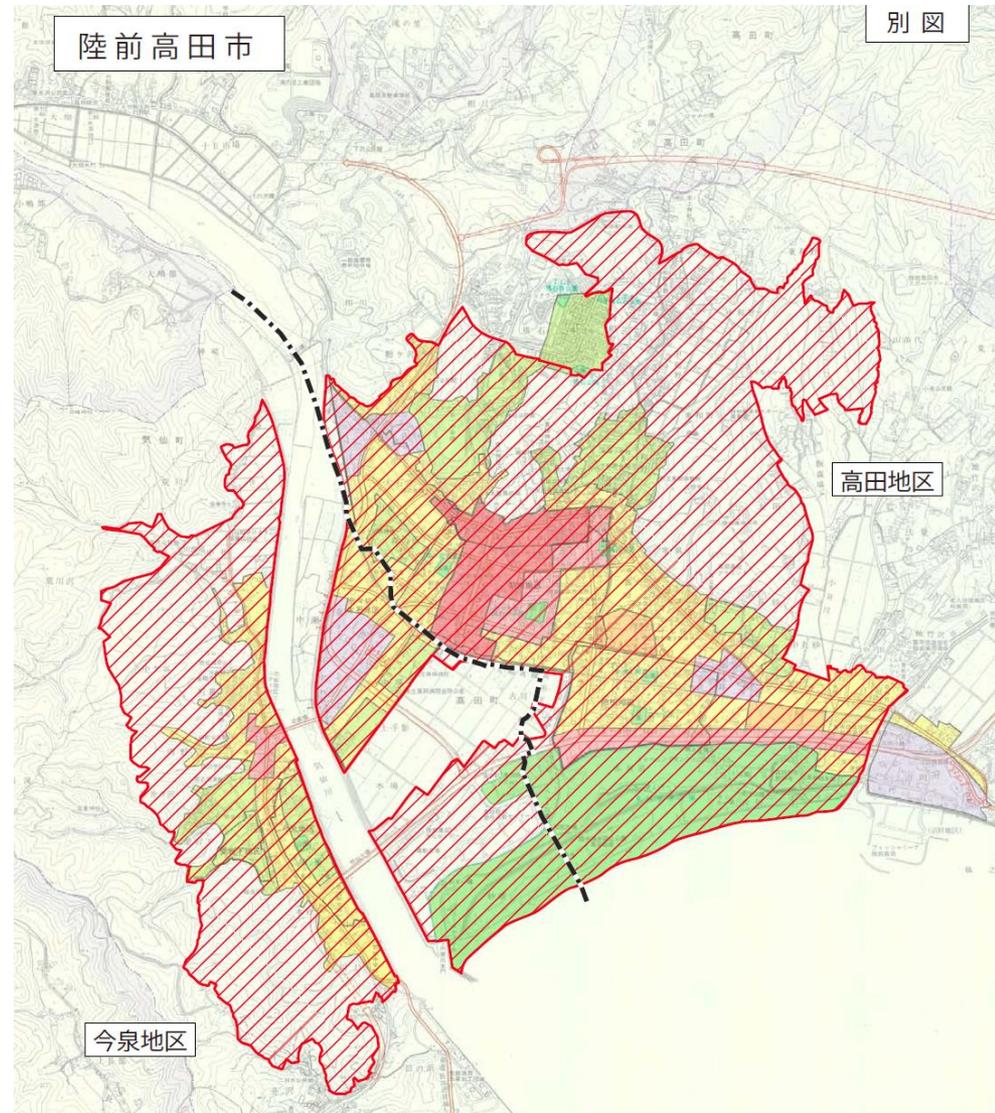


◆安全性の確保

- 防潮堤
 - 都市海岸について、市は当初より、市街地の安全なまちづくりの観点から15mを要請
 - 国の方針としてレベル1津波に対応した12.5mで決着
- レベル2津波に対しても国の方針よりさらに一段の安全性の確保を目指す
 - 今回浸水区域外の高所の新規開発・利用
 - 今回浸水区域内を宅地用途とする場合
 - レベル2津波時においても浸水しないよう土地の嵩上げを実施
 - 住宅用途についてはその他用途以上の安全性の確保(山際への立地、一層の嵩上げ、建築規制など)
 - 避難ビルの適正配置
 - 避難路(歩行者・自動車)・避難滞留空間の整備
 - 容量とわかりやすさの確保

◆UR都市機構の協力

- 当初より監理会議に参加
- 2012年3月2日
復興整備事業に係る
協力協定締結
 - 高田地区、今泉地区の復興整備事業
 - 災害公営住宅の整備



◆復興まちづくりの課題

- 復興計画の積み残し
 - 鉄道、防災メモリアル公園、漁港海岸の防潮堤
- 膨大な事業量
 - 人員不足(行政、専門家)
 - これまでの経緯、行政の立場、住民の思いへの理解
- 固定できない事業計画
 - 人口減少と復興計画のフレーム調整
 - 事業の段階化、計画と事業の相互呼応調整
- 事業の長期化
 - 恒久復興と短期仮設復興のギャップ
 - (仮復旧→復旧→復興)の連続性
 - 災害公営住宅、復興モデル地区
- ソフトなまちづくり施策との連携
 - 上物建設における歴史・文化・景観
 - 産業、福祉、教育、交通